



森のなかま

2016年12月号

NO. 104 (継続249号)

事務所が移転しています!!

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

“第39回かわさき市民祭り 街頭キャンペーン”

日：11月4日（金）晴れ、11月5日（土）晴れ、11月6日（日）晴れ

場所：川崎市川崎区富士見公園 おまつり広場（川崎競輪場）西スタンド2FL

完成した木の実クラフト



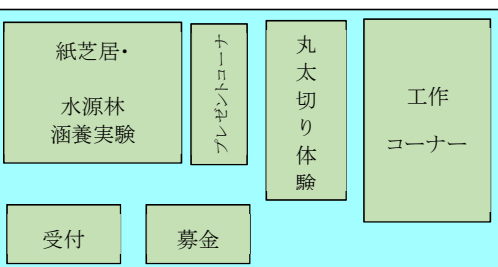
出店場所と入場者数

出店場所：昨年と同じ、川崎競輪場・西スタンド2FL(屋内)となりました。天気は3日間とも晴れた安定した日和でした。広さは2ブースのみではみだし等が許されず狭いスペースや客引き等が規制された活動となりましたが、ほぼ例年と同入場者数となりました

入場者数：11月4日 151名(大人100名、子供 51名)

11月5日 270名(大人120名、子供150名) ⇒ 合計 753名

11月6日 332名(大人152名、子供180名)



出店場所レイアウト概要
図とパノラマ写真(開場前です)

キャンペーン実施内容

- (1)「紙芝居(水は森林からやってくる)」、「クイズ(問いかけ)」、「水源涵養機能実験コーナー」等より、「森林の働き」を通じて、「水源の森林づくり」事業の理解をしていただく。
- (2)間伐材丸太切り体験
- (3)木工教室(間伐材の輪切りを使った工作等)
- (4)リーフレット配布等による「水源の森林づくり」の広報
- (5)トラスト会員勧誘および普及啓発活動



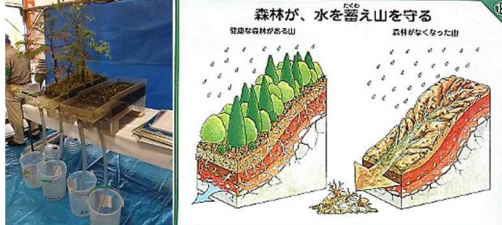
その後の盛況ぶり
をご覧ください



紙芝居と水源林涵養実験



水源林涵養実験装置とその機能説明紙芝居



お話をちゃんと聞いたのでプレゼント



森林のお話と実験

台座作り(疑似間伐体験)

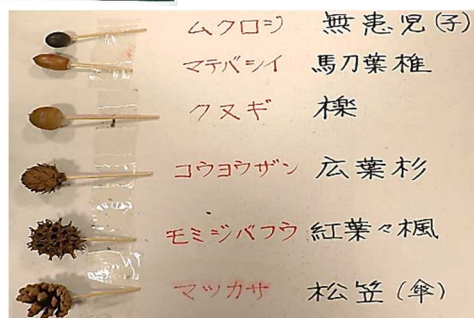


木の実クラフト



丸太切り体験と木の実クラフト

使用した木の実



森林部会主催 平成28年度

「第2回 間伐研修会」

日時:10月23日(日)8:50~15:30、晴れ 場所:塚原ボランティア林(林道足柄線) ヒノキ径φ15cm前後

<森林部会 石川 裕一 12期>

(写真/キャプション:滝澤 洋子 5期、石川 裕一 12期)

● 研修目的: 滑車・フェリングレバー等の道具を利用する基本的な技量向上と合わせ、実際に「間伐」のインストラクターとして参加者をリードしていく作業指導の要領や安全への配慮を習得し、お互いに確認し合い、理解し、共有化をしていただくことを目的とします。

● 研修スケジュール:

8:50~ 9:10 オリエンテーション 9:10~ 9:20 間伐整備マニュアル改定版について

9:20~12:00 現場へ移動、各班に分かれて実習

12:00~12:30 昼食

12:30~14:30 実習

14:30~ 移動 道具清掃と返納

14:50~15:30 意見交換・講評/解散

● 資料: 「間伐作業マニュアル」(Ver.1.2)、安全チェックシート(間伐)

10月23日、塚原ボランティアフィールドにて今年度2回目の間伐研修会が開催されました。開催に当たって会場近くのヘアピンカーブ駐車場でオリエンテーションが行われました。参加者は17名。

最初に森林部会滝澤部会長から、「自分で伐ろう。道具の使い方を身に着けよう。日頃の疑問を班内で話し合い、さらに参加者間で共有出来るように後で発表しよう。」と開会の宣言がありました。次に佐藤講師から、改定中の間伐マニュアルの説明が行われ、松永講師からは、「木は太くないが、太いと思ってやって、質を高めて下さい。」と激励の言葉。

準備運動の後、フリーの部会長と講師を合わせた21人が3班に分かれてヒノキの植林帯へ入りました。昨年まで県民参加の森林づくりで枝打ちを行っていた若い森で、木はそれほど大きくないが、急斜面、必ず掛かると言う研修にはもってこいの森でした。KYK活動「安全確認ヨシッ!」の指差唱和で始まり、インストラクター役・伐倒者役を交代で経験し、全員が一本以上倒すことができました。アンカーストラップの結び方バリエーション、フェリングレバーの使い方、さらにプルーシックループと滑車を組み合わせた3倍力システムについても学ぶ機会があり、有意義な研修会になったと思われます。暗かった森も、終了時にはいくらか明るくなり、参加者は何かを持ち帰ってくれたことと思います。終了ミーティングの時、牡鹿のラブコール(ラットコール)が響き渡り、一瞬、会が中断するハプニングがありましたが、怪我人もなく、安全に終了できたことを皆さんに感謝します。



オリエンテーション



KYK 活動「安全確認ヨシ!」



スリングの結び方はいろいろあります

○講師: 森林部会 石川 裕一⑫、松永廣⑪、佐藤武晴⑤ (担当班順)、全体監視: 滝澤 洋子⑤

○幹事: 石川 裕一⑫ 松永 廣⑪・滝澤 洋子⑤

○参加者(研修者)17名: 小清水⑤、内野⑨、水津⑨、小笠原⑩、宮下⑩、湯浅⑪、小池⑫、澤村⑫、永松⑫、宇田川⑬、北村⑬、斉藤⑬、古舘⑬、水上⑬、小松⑭、立花⑭、水野⑭、

補足: KYについて(空気Kが読めないYのようなおちより語ではありません。それよりずっと前からの実績歴史のあるものです) KYT(危険予知訓練 Kiken Yochi Training)とKYK(危険予知活動 Kiken Yochi Katudou)を同じものとして取り組んでいる企業や建設現場もあるようですが、厳密にいうと、KYT(危険予知訓練)は、現場でのKYのために準備として事前に行うもので、KYK(危険予知活動)は、現場でその日の作業開始前に行うものとして区別できます。(広報部 松本)

自然観察部会(丹沢大山自然再生委員会と共催)第85回森林探訪

『大山の自然を観察』

10月15日(土) 8:00~15:30、晴れ 参加者:35名

コース 秦野駅-(バス)-ヤビツ峠=大山山頂=見晴台=阿夫利神社下社(解散)

< 自然観察部会 松永 廣 11期 >

(写真&キャプション 内野 ミドリ 9期)



オリエンテーション

今回の森林探訪は丹沢大山自然再生委員会と初めての共催事業でしたので、部会長の内野と綿密な打ち合わせを行い準備しました。本番当日は天気にも恵まれてヤビツ峠行バス乗り場には長蛇の列ができていました。数台の臨時バスが手配されていたので、全員無事ヤビツ峠に集合できました。

草花や鮮やかな果実等が目立つ
大山の植生を見ながら登っていく

ヤビツ峠の広場でオリエンテーションと準備体操をしたら班ごとに出発です。しばらくは登りが続きますが参加者の体調に合わせて歩きます。登っていきますとタイアザミ、アズマヤマアザミ、ホソエノアザミなどが観察できますが、3種は自然交雑していることが多く同定には悩みます。山頂付近の崩壊地には大きな花のフジアザミが咲き、作業員が崩落防止作業を施工しており、大山の自然保護が実感できました。山頂の広場で富士山を眺めながらの昼食を食べてイケマ、メギ、カマツカなどを観察して雷ノ峰尾根を降ります。

降りていきますとブナ、トリカブト、シソ類が観察できます。見晴台に近づくと「かながわ美林50選」でもあるアカガシ、モミの大木の林に入ります。大きな木を観ると威厳を感じ、人間のちっぽけさを感じるのは私だけではないと思います。

見晴台に到着するとベンチで最後の休憩です。降りてきた方向を振り返ると色づいた大山の全景を見渡すことができます。もう少し歩けば阿夫利神社下社です。全員無事下山しアンケートを回収して解散しました。

イタソミ尾根北側斜面の
荒廃地整備作業を見る参加者整備資材はヘリコプターで搬入
(ブルーシートの包み)

雷ノ峰尾根西側斜面、荒廃地(右)で説明 フジアザミが咲いていた

スタッフ

丹沢大山自然再生委員会 田中様 看護師 青木様
インストラクター:リーダー 松永⑪、女川⑨、内野⑨、鳥飼⑪、赤崎⑫、
小川⑬、長尾⑬、松石⑬、西岡⑭、牧石⑭、山口⑭

雷ノ峰尾根は比較的歩きやすい



富士山が見える大山山頂の北側で昼食 植生保護柵の前で再生・保全の話をする

見晴台で一休み、大山は夕日に映えて色づいて見えた

阿夫利神社下社近くの
二重滝

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

第16回 わが国を代表する木 スギ

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

スギはわが国の固有種で、海外で植林されたものは別としてわが国だけに分布します。樹幹がまっすぐに伸び、比較的加工もしやすいので古くから柱や板などの建材として利用されてきました。戦後の復興に建材が必要とされたこともあり、スギはヒノキと共に北海道を除く各地に戦後、植林されました。

電車の車窓からはスギ、ヒノキの林がよく見られます。わが国の森林面積は国土面積の約 7 割の 68%、2500 万ヘクタールです。そのうちの 1000 万ヘクタールが人工林で、スギ人工林は約 450 万ヘクタールを占めています。スギがよく目につくことがお分かりになると思います。

建材としてばかりでなく、比較的加工しやすく利用されやすいスギですので、「古(いにしえ)の人の植えけむ杉が枝に霞たなびく春はきぬらし」と万葉集の歌にあるほどに、植林は今に始まったわけではなく古くから行なわれてきました。スギは植物分類学上では 1 属 1 種ですが、林業上、最も重要な樹種ですので、地方ごとに品種改良が行なわれてきました。それで、地方ごとに秋田スギ、吉野杉、アヤスギ、ヤブクグリなどといった特有の名を持った林業品種が多くあります。スギは私たちと共に古(いにしえ)から共に歩んできたとも言えるでしょう。

そのスギが最近では花粉症で悪者にされています。戦後大量に植林したスギが花粉を発生する樹齢に達し、花粉を放出するからです。スギ花粉症は花粉だけで起こるのではなく、車の排気ガスなども影響しているとも言われていますが、花粉が関係していることには違いありません。最近では花粉を少なくするための品種改良や薬剤の使用による花粉低減の試みも行われていますし、花粉を作らないスギ品種の作出なども考えられています。

悪者扱いにされているスギですが、ほかの木にはないすばらしい点も持っているのです。

スギ葉の精油が皮膚にかゆみを伴うアトピーの症状を和らげることが皮膚科のお医者さんによって確かめられたのです。スギ葉の煎汁がなんと花粉

症に効果があることは古くから猟師の間に伝えられ使用されてきました。

喘息・アトピーにも効果のあるスギの香り



♂雄花の実



♀雌花の実(スギボックリ)



スギの葉

スギ葉の精油が咳止めに効果があることも知られていますし、ラットを用いた実験では胃潰瘍の発症を抑制する作用があることも明らかにされています。胃潰瘍は胃液の過剰の分泌によって酸度が高まり胃粘膜が損傷を受けることで起こりますが、精油を投与することで胃液の分泌が大幅に減少するので胃潰瘍が抑制されるのです。

スギに含まれているセドロールという香り成分が寝つきをよくし、睡眠効率を上げることも知られています。スギ材の香りには気分を落ち着ける働きがあることや、スギ材内装の部屋では作業能率が上がることもわかっています。

花粉症で悪者にされているスギですが、ヒノキと共にわが国を代表する木、スギ、よい面もたくさんあるのです。

(写真 2016.11.20.やどりき水源林寄沢近くのスギ)

活動短信

今回の掲載は平成28年9/16～10/22です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



無料イラストより



玄鳥去 9/18～9/22 頃
つばめさる
燕が南へ帰っていく
第四十五候 白露 末侯

蟋蟀在戸 10/18～10/22 頃
きりぎりすとにあり
キリギリスが戸口で鳴く
第五十一候 寒露 末侯

◆ 川崎市立小田小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～
「木がためこんでいる二酸化炭素の量を測ろう」

日 9月16日午前(金)、曇り後小雨

場 川崎市川崎区小田4丁目12-24 川崎市立小田小学校

参 小田小学校5年3クラス生徒86名と教師3名

イ L足立④、井出①、森本⑤、松本⑧、加藤久雄⑫、

総合学習の一環として学校内に植わっている樹木のCO₂の測定をいたしました。樹木は、校舎周りの3区合計43本を学校側へ選定、番号付けを依頼し二名一組にて実施しました。チャボヒバが多くキンモクセイ、クスノキ、ヤマモモ、その他3m以下の低木が大多数でした。測定前から小雨となり、樹木調査票が濡れましたがしっかりと樹木尺にて計測しました。その後、TVに自動計算された集計結果が反映されました。結果は、最多吸収量木＝240kg、総CO₂年間吸収量＝1,898kg、一本当たりのCO₂年間吸収量＝44kg、学校のCO₂総年間排出量(電気、都市ガス、水道)＝91,021kgで樹木が吸収する割合は、2%でした。最後に、木がどのくらいのCO₂を吸収したのかわかったとの生徒挨拶がありました。

(記 加藤 久雄 ⑫)

◆ 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 9月22日(木祝)8:00～13:30、雨

場 鎌倉市梶原(鎌倉市所有林)

参 32名

財 豊丸課長、靱山様 **看** 小林様

用具 森林組合連合会1名

イ L福島⑪、国分③、安部⑤、北村⑥、杉戸⑥、富樫⑥、阿部⑧、野牛⑧、園田⑨、後藤⑩、波多野⑪、中村⑪、武井⑬、星野⑬、水上⑬、高橋⑨

研 伊東⑭、木村⑭、黒川⑭、依田⑭

実施日、予備日も天候はすぐれないとの予報であったが、比較的好条件と思われた実施日で行うようにしたが、朝から雨が降っており終日晴れる天候を期待できない状況であった。事前打ち合わせで作業は安全性を考慮して中止としたが、参加された方の希望を取り希望者には現地を見学して頂くように段取りを行った。

32名の方が現地見学を希望されたため、バスで梶原まで移動し徒歩で約20分の現地を見学した。

現地見学は予定地の一部であるが、ほとんど整備されていない状況であり、荒れた竹林を目の当たりにした。

財団より来年もこの場所でリベンジしたいので再度の参加をお願いしたいとの挨拶があり、現地見学を終了しバスで帰路についた。終日雨であったが参加者の意欲は高く、来年のリベンジに是非参加をしていただきたいと思った。

(記 高橋 修 ⑨)

◆ 鎌倉市公園協会

平成28年度緑のレンジャー、シニア第7回

日 9月24日(土) 9:30～13:00、曇りのち雨

場 散在が池森林公園

参 10名(男7名、女3名)

スタッフ 公益財団法人鎌倉市公園協会 千田様、後藤様

イ L安部⑤、小沢⑨

公園管理事務所脇に集合し、後藤様の進行により本日のオリエンテーリング開始。曇り空の中空模様が気がかりであったが、安全第一として公園内の目的地へ2班に分かれ出発。9/17(第6回)に散在が池森林公園内を巡回しながら、公園、緑地の管理上の問題点を考え、気づいた箇所の手入れ、管理作業を本日の活動(第7回)で行う。

作業場所に到着時、前回の巡回時に各々がチェックされた箇所を改めて確認、作業方法、使用する道具、安全確認の方法等を指示し、枝払い、間伐の緑の作業を開始。基本作業を学ぶ為、枝払いには主に枯れ枝の撤去を主目的とし、間伐作業は全員で間伐の目的、意味等を確認しながら、ロープの使用目的と受け口、斜め切り、追い口等の実践。作業終了頃に雨が降り始め、出発地点へ戻り道具の返却、本日のまとめ等を行い、第8回の源氏山公園での作業等の案内をして、ヒヤリハットも無く全員無事を確認し散会した。

(記 小沢 章男 ⑨)

◆ 横浜市立綱島小学校

＝「KAMIGO! 自然の森へLet's Go!!」一日目＝

日 9月26日(月)、晴れ

場 横浜自然観察の森

参 小学4年生 104名、教師・スタッフ 9名

イ L足立④、堀江④、伊藤⑦、渡部⑦、内野⑨、

小沢⑨、村井⑨、加藤久雄⑫、大原⑬、藺田⑬、真部⑬

鎌倉宮に集合し出陣式をすませ11班構成でいざ出陣(11:25)となりました。コース前半は、永福寺跡にて10円硬貨の裏側の説明、獅子舞谷から山道にはいり湧水、植物、のお出迎えそしてイチョウの大木群を通り抜け、茶店脇を上り天園コースの稜線交差地から昼食、トイレ休憩場所の大平山(159m)に予定時刻を10分上回りに着きました。その後、岩山頂上での集合写真撮りをすませ出発時刻(13:45)を迎えました。

コース後半は前半とは林層が異なる明るい山道歩きで市境広場を経て一路、自然観察センターから最終地点である上郷・森の家へ向かいました。

最後にお礼の言葉(15:20)を聞き「明日もよろしく願いいたします」と一日目の活動を無事に終えました。反省会に移り安全であったことを確認し翌日の活動の打ち合わせ後に解散となりました。

(記 加藤 久雄 ⑫)

＝「KAMIGO! 自然の森へLet's Go!!」二日目＝

日 9月27日(火)、小雨後晴れ

場 横浜自然観察の森

参 小学4年生 104名、教師・スタッフ 9名

イ L堀江④、足立④、伊藤⑦、渡部⑦、内野⑨、

小沢⑨、村井⑨、加藤久雄⑫、大原⑬、藺田⑬、真部⑬

一日目に引き続き二日目も同じ生徒同じインストラクターにて活動が始まりました。挨拶(9:45)の後、自然観察センター前からAグループ(1～6班)はヘイケボタルの湿地へBグループ(7～11班)は観察小屋へとコースをわけそして、ノギクの広場にて交差し休憩をとりました。出発直前に学校側から6問クイズラリーを行いたいので事前にインストラクターから教えて欲しい要望があり先生が「ゲンジボタルの他にボタル名はと質問し答える」ことでした。結果は全班が正解を回答しシールをゲットしました。また、全生徒が事前に割り当てられた樹木をウオチングする学習もありクイズとウオチングの忙しい活動になりました。

アキアカネの丘で閉会式(11:50)にのぞみ、お礼の言

葉を受けその後、反省会にてヒヤリハットなし、クイズは初めての経験であるという声がありました。

後日、学校側より「インストラクターさんたちがやさしく、また植物について分かりやすく教えてくださったので、子どもたちは、神奈川の森が好きになった、大切にしたいと感想に書いていました。本当にありがとうございました。」書面を受領しました。

(記 加藤 久雄 12期)

◆ 横浜市立南本宿小学校 間伐体験学習

日 9月29日(木)9:30～13:00、曇り

場 相模原市緑区長竹付近 承継分収林

参 小学4年生 58名、教師等 7名

財 古舘様、内田様、

イ L有坂⑧、小野⑦、小沢⑨、村井⑨、

木村⑭、小松⑭、牧石⑭

前日からの小雨の中、生徒達と長竹の現地に向かい、間伐する木を各インストラクターが1本ずつ選木し、子供達と伐倒方向を決めながらロープを張り、安全な方向に引き伐倒する者、引っ張る者に分かれて作業し、伐倒木が倒れた時には子供達は大声で喜んでいました。

掛かり木になった班もありましたが、周りのインストラクターの協力で大事には至らず、伐倒後の枝打ち、玉切り、コースター作りも時間内に終わり、インストラクターから森林の話の聞きながら昼食を済ませ、予定時間内に愛川ふれあいの村に戻り、14時頃学校に向かい出発した。なおヒルに咬まれた子供はいませんでした。

(記、有城 宗二 ⑧)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

◆ 県民参加の森林づくり 植樹(広葉樹)

(ヒメジャラ、イロハモジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ)4種40本計160本

日 10月1日(土)7:50～15:30、雨

場 箱根町元箱根 お玉が池町有林

参 61名

財 豊丸課長、鳥海様 他1名、その他森林組合等4名

イ L武者⑦、宮本④、堀江④、伊藤⑦、有坂⑧、

波多野⑨、水津⑨、杉崎⑩、湯浅⑪、吉田⑪、小池⑫、
加藤久雄⑫、渡辺朋和⑫、藺田⑬、宇田川⑬、小川⑬、

研 水野⑭、藤井世枝己⑭、藤井敏彦⑭、

安全パトロール 佐藤⑤、松永⑪

雨にもかかわらず61名の参加がありました。活動後の入浴を予定している高原ホテルが、翌日から改装のため閉鎖になるということで、雨の中で広葉樹植栽の活動が行われました。

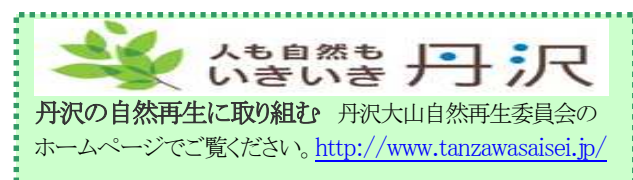
雨で道がぬかるんでいたため、経験の少ない参加者から安全な歩き方を教えて欲しかったという声もありました。今回の活動では、いくつか安全の注意があったので記しておきます。苗袋を2つ持って行こうとしたり、鋤(クワ)を杖代わりにしている人がいました。

ここはインストラクターが注意を促すべきところでしたが、声をかけるインストラクターがいなかったりと、インストラクターとしての責任を再認識させられる活動でした。

手際よく植えられるよう先に苗を置いてしまった班もありましたが、植え残しをしがちなので、必ず苗袋から1本ずつ出して植えていくようにとの注意もありました。

最後まで雨でしたが、高原ホテルで入浴後、小田原駅で解散しました。

(記 渡辺 朋和 ⑫)



◆ 日揮株式会社

パートナー林活動 やどりき大会

日 10月1日(土)10:00～13:30、曇り時々小雨

場 やどりき水源林、日揮パートナー林

参 日揮(株)社員 80名

県 齋藤課長、他1名

イ L西出⑫、渡辺③、高橋③、白畑⑦、若林⑦、

鈴木⑧、小沢⑨、村井⑨、大澤⑩、小笠原⑩、

宮下⑩、大塚⑪、澤村⑫、古舘⑬、牧石⑭

時折小雨が降る天気で間伐は中止となり、間伐の方は希望された他の4つの活動に参加されました。

① 自然観察班は、小さいお子様もおられて秦野林道とBコースに分かれて、紫色のツリフネソウ、ムササビの

巣穴、ヤマノイモのムカゴ、山栗などを観察して楽しんで頂きました。

② 水棲生物観察班は、参加者ほぼ全員が外国の方で網の使い方などを説明した後、2班に分かれて水生生物を採取して広場に持ち帰り、全員で観察しながら楽しい時間を過ごしました。

③ 森林癒やし体験班は、雨のためハンモックと樹冠の揺らぎ体験ができませんでしたが、呼吸法や森の香り体験をしたり、中でも水音体験、ハーブティがとても好評で参加者の方に喜んで頂きました。

④ クラフト作り班は、カタツムリとカスタネットの2種類を用意して、子供から大人の方まで皆さんに楽しんで頂きました。各活動を終えられた方は、お土産用のコースター作りで丸太切りを楽しんで頂きましたが、皆さん、ヒノキの良い香りにうっとりされていました。

今回は、参加者のほぼ半数が外国の方でしたが、日本の緑豊かな森での体験は長く記憶に残るのではないかと思います。

(記 西出 健一 ⑫)

◆ 厚木市立相川小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～ 『森が「緑のダム」になることがわかる実験』

日 10月4日(火)、晴れ

場 厚木市岡田5-10-1 相川小学校

参 小学4年(27名) 3年生(26名)、教師 2名

イ L足立④、井出①、堀江④、加藤久雄⑫

井出さん制作の実験装置(A=木なし、B=木あり)と部材を持ちこみ午前に2回の実験をしました。

授業の進め方は、従来の構成に則りさらに水入れ、バケツ計測を生徒にも引き受けてもらい、今回はA、Bへ6リットルの水入れとしました。実験結果は、しみこんだ水の量、二か所から流れ出た水の量からBとAのしみこんだ水の量と比率(約何倍の雨水)を求めてもらい、『森が「緑のダム」になる』ことを知り、森の力を実感することができました。

そして、4年生(一回目)=3.1倍、3年生(二回目)=3倍のため込みが判明しました。また3年生では予想と実験結果が一致した全問正解者は6名でした。質問コーナーでは、小学生ならではの質問が多数あり、定刻を向かえ感謝の挨拶を受け実験完了となりました。

(記 加藤 久雄 ⑫)

◆ パルシステム神奈川ゆめコープ

環境課題 ヒノキの枝打ち活動

日 10月10日(月・祝)

場 小田原わんぱくランド隣接のヒノキ林

参 パルシステムお客様 23名

スタッフ パルシステム様8名と森林組合1名

イ L上田⑩、白畑⑦、大原⑬

不順な天気が続いていたことで、参加者の学校行事と重なり、キャンセルなどがあり少し少なめの参加者になりましたが、予定通り9時半にわんぱくランド第3駐車場に集合した。

ヒノキ林に移動し10時より開会式と森林講話の後、植栽後手を付けられていない15年生のヒノキ林に入った。このヒノキは地際から枯れ枝の残っている状態で、枝打ちの意義とその作業方法のデモンストレーションのあと作業に取り掛かった。

現場はテラス状になっており、足場は平らで子どもたちが作業するうえで問題はなかった。子供たちが下から手の届くところまで枝打ちし、その上は親が1.8m～2.0mくらいまで枝を落とした。

作業が終わった時、施工前と施工後の状況を確認して、枝が落とされ整理された林間の様子に満足げであった。

午後からは、青空木工工作として杉板をカットして木枠を組み立てた。戸惑いながらの作業であったが親子で協力して時間内に思い思いの木枠を完成させた。

活動した半日が短く感じるほど充実した時間を過ごし、森林を身近に感じてもらうことができました。

(記 上田 啓二 ⑩)

◆ 横浜市立善部小学校 自然観察

日 10月15日(土)、晴れ

場 南足柄市21世紀の森 天然の森コース

参 小学5年生2クラス 67名、教師等13名

イ L村井⑨、渡辺③、伊藤⑦、小野⑦、

有坂⑧、草野⑧、松本⑧、杉崎⑩

心配された天気も雲一つない快晴に恵まれ、秋らしい爽やかな活動日和となりました。

前日の宿泊体験を経ての生徒を乗せたバスは予定通り10時到着、開会式をスタート。

参加者は8班に分かれ活動開始。リーダーから配布の「種散布資料」を参考にしながら、山道に入る前に、森林

館裏のどんぐり観察、ブナの実のお話、ムクロジの種を使った界面活性剤の実演、リスとネズミによる食痕のあるオニグルミの実の観察、コブシの実・ひつつき虫の話など。これで好奇心が湧き出し前日の寝不足も吹き飛んでしまったようだ。

さらには、草笛とカラムシの葉を使ったパンという音出しなどで、林道も賑やかになってきたところで休憩・水分補給。いよいよ、ここから天然の森コースの山道に入る。要付添の生徒1名は、21世紀の森・管理所長のご厚意により乗用車でセントラル広場へ直行。狭い山道では「ケヤキの大木」を見ながらの光合成の話などに限り、安全だけを心掛け、セントラル広場を目指し、ただひたすら登りに専念。

展望所では大磯方面の海を展望しながら休憩。ヒノキ採種場前で無花粉種の話。ツリフネソウの種飛ばしに興じながら展望台へ。快晴下の富士山を眺望して、思わずヤッホーの音が響く。

休憩所前で班ごとの昼食後、午後12時30分頃下山開始。午前中に学んだ種の散布、森の手入や水源林の話などを聞きながら予定通り13時30分には広場到着。閉会式後、帰路のバスをインストラクター全員で見送り、反省会のあと散会とした。

山歩きは初めてという生徒も多く、楽しかったという声が聞かれ、インストラクター全員納得。お天気にも恵まれ、大きな事故もなく無事に終了することができました。

(記 草野 弘 ⑧)

◆ 県民参加の森づくり 除伐

日 10月16日(日) 8:30～13:30、晴れ

場 秦野市曾屋 弘法山公園

参 59名

財 鳥海様、内田様 看 青木様

スタッフ 秦野市市関係者 3名

イ L白畑⑦、佐藤①、高橋③、滝澤⑤、佐藤⑤、

永野⑥、有坂⑧、鈴木⑧、松村⑧、内野⑨、園田⑨、山口⑪、松永⑪、澤村⑫、藺田⑬、宇田川⑬

研 伊東⑭、岩田⑭、木村⑭

インストラクター及びスタッフは、朝7時50分に秦野駅南口に集合し、事前ミーティングのあと、参加者を案内し、班毎に5台のバスに分乗した。小田急線事故の影響で若干参加者が減ったが、予定どおり実施された。

作業場所は、弘法山公園の西側にある登山道階段脇の

雑木林の緩斜面である。直径7cm以下の全ての樹木、竹類の除伐及び枯損木の伐採を行なった。条件の良い緩斜面での作業であったことから、除伐作業は順調に進み、2時間半の作業で、雑然としていた雑木林は見違えるほど明るく整然とした雑木林となった。

今回は、伐採した枝葉を細かく処理し、斜面に平行に杭を打ち、集積も腰の高さに留めたりして、景観に配慮した作業を心がけたが、ほぼイメージ通りの除伐を行うことができた。

昼食後のミーティングでも、達成感のある満足度の高い作業であったとの参加者の感想であった。来年完成予定の温泉施設を楽しみに、次回の同地での作業を約して帰路に就いた。

(記 山口 久基 ⑪)

◆ 株式会社カナエル

森林再生パートナー活動

日 10月19日(水)9:30~13:30、曇り

場 南足柄市 県立21世紀の森 マダケの展示林

参 佐野取締役他 大人19名(男性15名・女性5名)

イ L小沢⑨、辻村⑨

曇り空であるが雨の心配はなく、リーダーの挨拶と竹林整備に対する概要説明が行われた後、作業道具を身に着け現地に向かう、すでに多数の参加者は現地での作業経験があるらしく抵抗なく作業を始めようとするが、手を付ける前に竹林整備の為の手順を説明し作業開始した。

女性数名が未経験の為インストラクターが作業の仕方を指導する。竹林内は薄暗く倒れた古竹が散乱し足の踏み場もない状態である、古竹を均等の長さに玉切り伐採集積に汗を流す。周囲が広がり13:00頃まで作業を続け、陽も入らない薄暗かった竹林内は参加者の努力により明るく、広く、気持ちのいい竹林となりました。

(記 辻村 寿 ⑨)

◆ 日本石油輸送株式会社

「日本石油輸送の森」森林活動(枝打ち作業)

日 10月22日(土)9:00~12:30、曇り

場 南足柄市塚原ボランティアフィールド

参 日本石油輸送(株)社員・家族、

大人19名(女性5名)、子供1名、合計20名

イ L小沢⑨、大原⑬

作業地状況確認と、子供参加のコースターづくりに適した間伐材探し、装備準備等、社員の皆さん到着後、段取り良く活動に入る為、早めに現地入りしました。全員の記念写真撮影後、装備・準備体操を済ませ、急斜面な道でしたが、作業場へ移動後、枝打ちの目的を説明し、やり方の手本を示した後、足場の安全確保、皮を剥かないよう注意して作業を開始しました。

作業場は幅が狭く、細長い地形の為、隣の人との間隔に注意して作業しました。植栽後、一度も枝打ちされてなく、枝が地際から伸びていて、作業が大変なところもありましたが、毎年、参加のベテランの社員の方々もおられ、今回、初めての参加者の方も、上手に枝打ちされ、全員、怪我もなく、作業地での枝打ちが予定通り終了できました。

社員の皆さんには、作業後の振り返りで、明るく見通しが良くなったこと、風通りが良くなったことを実感してもらい、また、森林のはたらきや役割に関する理解を深めて頂いたことと思います。

(記 大原 正志 13期)

投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所

参 参加者&人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター(○数字:期) 研:研修枠
以下本文

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林 ミニガイド

11月のトピックス

今年の紅葉は遅いようで、色も今一です。写真に苦労しました。



広場トイレ近く(11/20 松本)

12月の水源林

やどりきは秋の終わりと冬の始まりです。動物も山の下に降りてきます。うまくするとカモシカや、冬鳥に逢えるかも!!

「森の案内人」情報

(12月、1月、2月は休みです)

●実施時間: 毎週土曜・日曜

AM10時・PM1時、1～2時間程度

●集合: 水源林入口ゲート前

●内容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ: (公財)かながわトラスト
みどり財団 TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35～40 分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

エコプロ2016 環境とエネルギーの未来展

2016 12/8(木) 9(金) 10(土) 10:00～18:00
(最終日は17:00まで)

会場 東京ビックサイト【東ホール】

主催 (一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

入場無料

<http://eco-pro.com/2016/>

毎年恒例の国内最大級の環境イベント、エコプロダクツ 2016 の開催まで一か月を切りました。

今年も、装飾が木のぬくもりを感じると評判の「森林からはじまるエコライフ展 2016」に、取り組む多くの企業・団体が参加します。

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

Tel: 090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871 小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【別冊はCCを】福島 正治 (事務局長)

〒214-0006

川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) [http://www.forest-](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)

[kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)

(HP 担当: 井出恒夫)

【割り込み情報】

11/25 に雪が降ったやどりきの雪の集会棟前です。(飯澤さん⑨撮影)



編集後記

★毎週のように活動で野外に出ていると庭仕事が多まらなせん。まだ花卉の球根を植えられず…大丈夫かな!?

(赤崎)

★先日、里山を歩くとこの時期はいつも木の実一杯だったのが、今年は何も無くどうしたのでしょうか?

(水口)

★先月末から滋賀県草津市に仏教三霊樹(無憂樹・印度菩提樹・沙羅樹)を見に行ってきた。沙羅樹は2本並んでいて沙羅双樹でした。花の時期(4月)にもう一度行きたいと思います。

(藺田)

★自己カレンダーが年々早くなってきた、もう師走です、年かな?

一家全員9人(子、孫)で那須に行ってきました。那須岳には雪があり触れてきました。

(松本)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛までご寄附2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保

事務局: 福島 正治

広報部: 水口俊則 赤崎さほり

小川和恵 藺田栄哉

大塚晴子 小池 哉

支援 伊藤恭造 大原正志

江頭淑子



期間: 11月26日(土)～12月25日(日)

点灯時間: 17:00～21:00

場所: 松田町 西平畑公園

(松田山ハーブガーデン)

町の清流や、松田山から望む富士山や相模湾を18万球のイルミネーションで再現。



神奈川県立生命の星・地球博物館
期間: 12/17(土)～2017年2/26(日)

神奈川県には、本小松石や根府川石、七沢石など、南関東に普及した石材や、風祭石やかま石など、産地の周辺で身近に使われた石材など、様々な石材があります。本展では、石材の地質学的な背景を紹介するとともに、その石材で造られた石造物などもあわせて紹介します。